

令和4年度 学校評価報告書 市教委提出用 三郷市立北中学校 校長 広木 友和 印						
評価項目	評価項目	No.	質問項目	学校自己評価結果	学校関係者評価結果	学校自己評価についての評価の説明及び学校の考え
組織運営等の状況	教育目標	1	学校は、児童・生徒及び家庭・地域の実情を踏まえ、適切な目標を設定し組織的に取り組んでいる。★	3.54	4.00	学校教育目標を具現化する生徒目標「あじさい運動」(あかい・ほろ・授業)に集中・さわやかな環境(いっしょに感動)、「家庭ではほしうど」(夢・信・感動)・読書・運動の輪を構築し実現しており、この合言葉が生活・保護者にも浸透している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を最大限に取り組み、できる限り保護者が校内に入れるように配慮できた。
		2	学校は、PDCAサイクル(計画・実行・評価・改善)のもと、学年・学級や教科・分掌等の経営にあたっている。	3.54		学年・学級経営・教科経営等を充実させるために、PDCAサイクルを継続的に実行できた。今年度は「あじさいプロジェクト」2年目として各プロジェクトで具体的に話し合いが複数行われた。その中で、現状の把握や課題点の改善についての共通理解を深めることができた。
	特色ある学校づくり	3	学校は、特色ある学校づくりの観点から教育内容の重点化を図っている。	3.49		学校で「あじさい運動」、家庭では「ほしうど」を教育活動の柱として特色ある学校づくりを推進している。今年度は、「学びを紡ぐ」訪ぎスローガンとして「一人学び・二人学び・集団学び」を掲げ、学校教育目標の達成に迫った。
		4	学校は、特色ある学校づくりのテーマのもと、教職員の共通理解を図り、「夢を育む教育」に組織的に取り組んでいる。★	3.37	3.88	一度や二度の失敗で下を向くことなく、前を向いて教育活動を行うことが「夢の実現」に繋がると考え、今年度は「何とかなる」を北中の合言葉として「夢を育む教育」を実現した。末年度は、行事の実施方法を再検討し、できる限り実施し、夢を育む教育に繋がると内容となるよう精査していく。
	実質向上	5	学校は、教職員の不祥事根絶をするための取組をしている。	3.77		全職員が常に意欲を高く持ち、信頼される教職員となるよう勤務に努めた。特に、倫理確立委員会や朝の打ち合わせ、職員会議等で、服務規律の徹底に努めた。また、管理職からの注意喚起だけでなく、職員から管理職への報告・連絡・相談等が迅速かつ正確な風通しの良い職場となるよう努めた。
		6	学校は、教職員の指導力向上に向け、計画的・組織的に研修に取り組んでいる。	3.60		全教員の年間一人一回以上の授業研究だけでなく、教科内やブロック間で研究協議を行うことができた。また、ポイントをついた短い職員による相互参観を行い、互いに指導助言を複数行うことができた。この他に、若手教職員には研究発表や校外の授業研究会に積極的に参加している。
授業等の状況	学力向上	7	学校は、児童生徒の実態を把握し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に取り組んでいる。	3.60		全職員日々教材研究に励んでおり、生徒の実態に合わせて授業が行えるよう授業改善に取り組んでいる。しかしながら、学力に差があることや、一人一人の課題が違ってくるから、学力差を考慮した課題をいくつか設定する等の工夫や主体的・対話的で深い学びにつながる授業の改善に努めている。
		8	学校は、日々の授業等を通して、児童生徒に基礎的・基本的な学力を身につけさせている。	3.54		全教員が、全ての授業で「ねらい」と「振り返り」を行うことができた。また、今年度も学習方略に着目した授業を構築することや自主学習の学年目標時間を定め、基礎的・基本的な学力の定着に取り組んだ。
	授業規律	9	学校は、教職員の共通理解を図り、「授業の心得」に基づき指導にあたっている。	3.49		全教職員で、三郷市「授業の心得」の共通理解を図り、全教職員が共通行動で指導に努めた。その結果、生徒達は授業中の姿勢もよく、授業に真剣に取り組むことができていた。
		10	学校は、児童生徒が落ち着いた雰囲気の中で学習できるように、授業を展開している。★	3.57	4.00	学校生活全体で規範意識の向上に努めていることが、授業規律の徹底に繋がっていると感じている。特に、各教科の授業で気になる点については、運営委員会・生徒指導委員会・教育相談委員会と話し合い、学校内外での安心安全について教職員の共通理解を図った指導を行うことができた。
	読書のまち	11	学校は、図書館経営を充実させ、読書活動を推進している。★	3.46	3.88	校舎の大規模改修により、よもつと広場とブックストリートの活用が行えない分、図書館経営の充実にも努めた。また、貸出し冊数により手作りのガチャを回せるなどの工夫により生徒たちに読書活動の興味を持たせることができた。
		12	学校は、児童生徒が主体的に読書活動に取り組めるよう指導している。★	3.26	3.88	朝の検定確認や欠席確認等と並行し、生徒たちの朝読書を行わせることができたが、朝読書以外での読書活動を確保することが難しかった。この他に、教職員が「おススメ図書紹介」などのイベントを充実させて生徒の読書活動の充実にも努めた。
	健康・体力	13	学校は、規則正しい食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしている。	3.29		各クラスとも担任が徹底するとともに、給食時のマナーとルールについてしっかり指導を徹底した。また、給食の重要性について、保護者より栄養指導からの指導、保護者の授業等で説明し、規則正しい食事の大切さの理解に努めた。この他に、前野木給食センターの栄養士からの指導や給食時の放送で地元でとれた食材を紹介するなど食についての意識の向上に努めたが、全体的に食の大切さについての理解が不足していると感じている。
		14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、授業や部活動・外遊びに意欲的に取り組めるよう指導している。★	3.49	4.00	コロナ禍の影響もあり、運動機会が激減しているが、体育を中心に体力向上に努めることができた。また、部活動では活動を制限しながらも効果的に取り組み、効率よく取り組んでいた。特に部活動については、今年度も、ハンドボール、陸上、水泳、バドミントン、卓球、柔道、サッカー、ソフトテニスなどたくさんの部活動で県大会や上位大会出場を果たし今年度も活躍した。
	道徳の推進	15	学校は、児童生徒や地域の実態に応じて、道徳教育の改善に取り組むとともに道徳教育を積極的に推進している。	3.43		本校では、各学年において、道徳的価値の取得に向けて夏と冬に道徳の授業を行った。特に、生徒や学級、学年の実態にあわせて副担任が授業をする「学年道徳」と、学校をあげて道徳教育の推進を図った。また、SNSトラブル防止やいじめ撲滅運動への取組として、道徳主任が中心となり全校共通道徳を実施するなどした。
		16	学校は、教育活動全体を通して、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努めている。	3.51		道徳の授業を要として、全教育活動を通して、道徳性を養うという目標を全教職員で共有した。その中で、生徒たちの道徳的価値観の習得に加え、道徳的実践力を育てるよう努めた。特に、道徳の授業だけでなく、各教科や学級活動、行事、部活動等すべての活動を通して、道徳的な判断力や実践力を育み、他者ともによりよく生きる態度の育成に努めた。
指導・管理の状況	礼儀正しい児童生徒の育成	17	学校は、教職員が自ら手本となり、児童生徒に対し規範意識を高める指導を行っている。	3.43		来校者や保護者・生徒達等に対しては常に丁寧な言葉づかい・親切に対応するよう全教職員の共通理解に努めた。また、生徒・保護者から信頼されるよう電話対応や教職員の身だしなみにも気を付け、規範となるよう努めている。この他に、生徒達の規範意識を高めるために、年度当初に全教職員が生徒指導の在り方について共通理解を図っている。
		18	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつができるように指導している。★	3.80	4.00	全教職員が、自ら率先して、生徒や保護者にあいさつをする習慣ができている。あじさい運動の「朝の挨拶運動ボランティア」などの実践により、廊下ですれ違った生徒たちは元気に挨拶ができている。特に、来校者からはあいさつについて謝れなくお褒めの言葉をいただいている。
		19	学校は、児童生徒が「です、ます」をつける等、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	3.49		これまで本校の教職員が生徒たちに丁寧な言葉づかいで、話し方や接し方の指導をしっかりと行ってきたことにより、生徒たちは本校教職員だけでなく、大人に対してはしっかりと丁寧な態度で丁寧な言葉遣いで話をするようになってきている。全職員が学校における立場をしっかりと理解し、全教育活動で生徒達とよりよい人間関係を築けている。
	生徒指導	20	学校は、児童生徒の不登校・非行問題行動に対し、共通理解を図り組織的に対応している。	3.51		生徒指導委員会、教育相談委員会、運営委員会で情報交換をしながら、SO、さわやか相談員をはじめ、第3教育相談室、第2教育相談室、子ども支援課、福祉課、児童相談所等とも緊密に連携を取り、それぞれの生徒の家庭環境と生活実態にあわせて対応を組織的にしている。
		21	学校は、保護者(必要に応じ関係機関)と連携を図り、児童生徒の指導にあたっている。	3.63		各学年、担任が中心となり、ひとりひとりの生徒に寄り添った丁寧な対応を行っている。特に、欠席生徒への連絡や長欠生徒への家庭訪問など、教職員が勤務時間に関係なく、保護者に連絡を取り生徒の指導にあたっている。今年度は関与率を算出し、複数年度で対応できるよう努めた。
		22	学校は、いじめの早期発見、早期対応に努めている。★	3.60	4.00	定期的の心と体の安全点検のみに留まらず、随時の心と体の安全点検や無記名によるいじめアンケート等を行い、早期発見に努めた。全学年共通道徳の実施、部活動、学級活動、奉仕活動など教育活動全体を通して生徒たちの自信や誇りを育てることができた。
	安心・安全	23	学校は、事故やトラブルに対するマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.54		危機管理マニュアルを作成し、交通事故、いじめ、不審者、不登校、信用失墜行為、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症等の疾病、非常災害等に対応できる体制を整えている。週休日や長期休業中の部活動等における事故対応についても、全教職員が報告・連絡・相談の徹底し、組織的に動けるように共通理解を図っている。
		24	学校は、定期的に安全点検を実施し、計画的に安全指導を行う等、日頃から安全な教育環境づくりに取り組んでいる。★	3.37	3.75	原則として、毎月21日に安全主任を中心に全職員が安全点検を実施している。特に、点検をして生徒の学校生活に支障をきたしている項目については、できるだけ早期に修繕し学校安全に努めている。
	教育環境	25	学校は、清掃活動や掲示教育に力を入れる等、組織的に環境美化に取り組んでいる。★	3.40	4.00	あじさい運動の「さわやかな環境」づくりを目指して、無言清掃を実施したり、床の水拭きの仕方などの指導を丁寧に行う事で、しっかりと清掃に取り組む姿勢が育っている。各学年のフロアには、生徒たちの活動の様子や顔が分かる掲示物を工夫して展示することで、いじめを生まない土壌づくりの一助や生徒たちが生き生きと生活できる環境を整えている。
		26	学校は、教職員が児童生徒と向き合うため、働き方改革を進めている。	3.29		本校は若い教員が多く、教材研究にどうしても時間がかかる状況があるが、教育活動を見直すとともに、業務分担の見直しを図っている。ふれあいデーやリフレッシュデーなどをこれまで以上に活用し、働き方改革を進め、今年度は大きな成果を収めたが、多くの教職員が長時間勤務になっている。
家庭・地域との連携状況	家庭・地域との連携	27	学校は、学校だよりやホームページ等で、教育活動の様子や成果・課題等について情報を発信している。★	3.71	4.00	今年度は新型コロナウイルスの感染拡大による影響により夏季休業日の延長や多くの学校行事の中止はあったが、毎日HPを更新し、校内の様子を発信した。また、宿泊行事や校外行事などではリアルタイムでHPを複数回更新し、生徒たちの情報を発信した。また、学校だよりについては、各学年に親善大使が学校だよりを届けたり、管理職が地域に配布することで情報発信に努めた。また、まちこめメールなども使用し広く情報を発信することができた。
		28	学校は、保護者や地域と連携し、親の学習や学校応援団の活用を図っている。★	3.46	3.75	今年度は、規模が小さくなったものの北中フェスタを実施することができた。しかし、3年生の「親の学習」などは引き続き中止しなければならない状況となった。学校運営協議会委員の協力を仰ぎ、生徒会を中心としたボランティア活動を企画したが、コロナ禍により今年度の実施と先送りとなった。
		29	学校は、PTA活動や地域活動に積極的に協力している。★	3.57	3.88	本年度は3年ぶりに「北中フェスタ」を行う事ができた。また、生徒会が行っている「クリーン作戦」では多くの生徒が参加し校庭の除草作業や近隣のごみ拾いに取り組むことができた。